

厳しい状況の中、 今年度も黒字を維持することができました

健康保険組合連合会が取りまとめた「令和2年度 健保組合予算早期集計結果の概要について」によると、健康保険組合全体で2316億円の経常赤字が見込まれており、令和元年度予算に比べ、赤字額は大幅に増加しています。また、赤字組合は、前年度に比べ65組合増加の916組合となり、依然として全体の6割を超えています。

今後、高齢化の進展、また、医療費および薬価の高騰により、国民医療費の増加が見込まれ、健康保険組合の負担もより一層増加すると思われます。団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となる2022年以降に向けて、高齢者医療制度の負担構造の見直しが課題となります。

皆さまにおかれましては、生活習慣病の予防やジェネリック医薬品の選択など、医療費の節減にご協力をお願いします。

こうした状況の中、当健康保険組合の令和元年度決算がまとまりましたので、その概要をお知らせします。

基礎数値

(令和2年3月末現在)

被保険者数	男	1,781人
	女	842人
	合計	2,623人
平均標準報酬月額	432,618円	
総標準賞与額 (年間合計)	4,005,286千円	
被扶養者数	2,539人	

一般勘定(健康保険)

収入

保険料収入は減少に

収入面では、被保険者数や総標準賞与額などが減少したため、保険料収入は前年度より6,500万円の減収となりました。また、繰越金より1億円を繰り入れ、収入総額は17億4,937万円となりました。

収入

単位：千円

保険料収入	1,607,343
国庫負担金収入・その他	386
調整保険料収入	25,019
繰越金	100,000
国庫補助金収入	170
財政調整事業交付金	9,357
雑収入	7,090
収入総額	1,749,365
経常収入	1,612,239

支出

納付金減少で、一時的に負担減に

医療費として支払われる保険給付費は、前年度より827万円減少の7億5,160万円となりました。

また、組合財政を圧迫する主要因ともいえる納付金については、今年度も前期高齢者納付金の精算の戻りがあり、前年度に比べて3,967万円の大幅な減少となりました。保健事業費につきましては、疾病予防や健康増進のための事業を実施しました。支出総額は13億7,552万円となりました。

支出

単位：千円

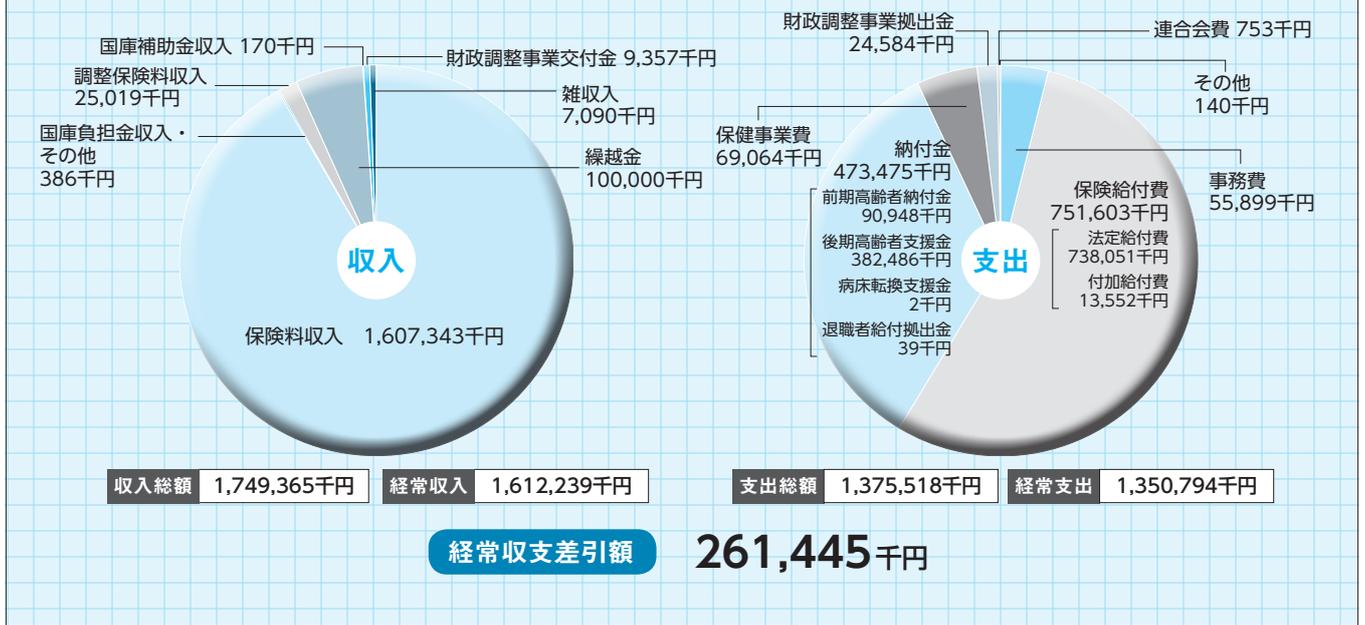
事務費	55,899
保険給付費	751,603
〔法定給付費〕	〔738,051〕
〔付加給付費〕	〔13,552〕
納付金	473,475
〔前期高齢者納付金〕	〔90,948〕
〔後期高齢者支援金〕	〔382,486〕
〔病床転換支援金〕	〔2〕
〔退職者給付拠出金〕	〔39〕
保健事業費	69,064
財政調整事業拠出金	24,584
連合会費	753
その他	140
支出総額	1,375,518
経常支出	1,350,794

単位：千円

一般勘定収支差引額	373,847
経常収支差引額	261,445

結果、令和元年度の収支差引額は3億7,385万円の黒字に、経常収支差引額においても2億6,145万円の黒字で終えることができました。

一般勘定(健康保険)



介護勘定(介護保険)

各市区町村が保険者として運営している介護保険の保険料徴収は、健康保険組合が代行して行っています。組合に加入する40歳以上64歳までの方々に対する介護保険料として徴収し、各市区町村へ納めています。介護保険の第2号被保険者数は、2,468人でした(被扶養者を含む)。

令和元年度は介護保険収入が1億7,963万円、介護保険納付金が2億1,130万円となりました。繰越金より2,997万円を補填し、別途1,530万円を繰り入れました。

収入		単位：千円
介護保険収入	179,631	
繰越金	29,965	
繰入金	15,300	
国庫補助金受入	2,140	
雑収入	11	
合計	227,047	

支出		単位：千円
介護納付金	211,298	
合計	211,298	
介護収支差引額	15,749	

公告

規約変更

→規約の一部について、以下の通り、変更を行いました。

(変更理由) 非常時における健康保険組合の体制整備を進めるため

(変更内容) **組合会ならびに理事会**について、**書面またはテレビ会議により開催可能とする**
※書面は都市封鎖や災害時に限る

(施行期日) 令和2年6月1日